対象:木造とRC造とを併用する建築物 ※第四号イ~へに該当するものを除く **START** イ(1) NΟ 地階を除く階数≦3 YES 高さ≦13m イ(2) ΝO 軒高≦ 9 m YES イ (1) (ii) 1・2階RC造3階末造 口 1階RC造2階木造 イ(1)(i) 1階RC造2階末造 1階RC造2・3階末造 イ(3) NΟ 延床面積≦500㎡ YES YES 延床面積 ≦ ΝΟ 000 m イ (5) **I**階RC造2・3階木造に該当するもの YES 木造部分について NΟ 各階の剛性率≧ 0. 6 YES イ(6) RC造部分について ΝО 各階の剛性率≧ 0. 6 YES 2 階木造部分 □ (3) NΟ С₀≧0.3での検討 構 イ (4) NΟ 地上部分の層間変形角≦1/200 造 \square (2) 計 İΥΕS 算 イ(7) ΝO 各階の偏心率≦0.15 適 □ (2) 合 YES 性 ィ® RC造部分について 判 S55告1791 ΝO $\Sigma 2.5 \alpha A_w + \Sigma 0.7 \alpha A_c \ge 0.75 ZWA$ 定 対 $Q_D = min \{Q_L + Q_E, Q_0 + Q_y\}$ 第3-ΝΟ 象 n=2.0以上により構造計算 第3一人 ΝO 地上部分の塔状比≦ 4 YES ィ(9) 木造部分について **口**(2) 55告1791 筋かいが負担する水平力βに応じた地震力割増 ΝO $\beta \leq 5/7 \Rightarrow 1+0.7 \quad \beta > 5/7 \Rightarrow 1.5$ 筋かい端部・接合部にめりこみの材料強度が作用した場合 NΟ 割裂き、せん断破壊が生じない 筋かい軸部が降伏する場合に NΟ 筋かい端部・接合部が破断しない 第1四 NO 地上部分の塔状比≦4 柱、梁及び接合部が割裂き、せん断破 第1五 ΝΟ 壊等により急激な耐力低下を生じない 第1六 CLTパネル工法の場合 S28告661 NO 耐力壁の構造に応じた地震力割増 第9第二 YES 設計方法がルート2 (Fesを含む許容応力度等計算) or YES ルート3(保有水平耐力計算)or限界耐力計算である。 <u>Y E S</u> 新大臣認定プログラムを使用して計算している。(含むルート1) NO

構造計算適合性判定対象外